

がある。指定管理者の問題も含め、現状はどうなっているのか。

A：天地人効果もあったが、ここに来て鈍化している。館員3名は創意工夫して意欲的に動いているので、前向きに考えてい。

Q：児童館の拠点を駅東にする案が町づくり検討委員会からでて、町長の公約も掲げている。しかし、ここに来て雪国館の中に意に反して児童館を作ること。現場の声を聞きたい。

A：児童の町づくり検討委員会の7項の答申の内、1項目を除き答申通りとなるだろう。東口に拠点をとると町長の答弁について、現状では対応出来ない。どういう方向にするのか町づくり委員会と現状について話し合いをしていきたい。

雪国館のバリアフリー化と、指定管理者の方向を出したいと、以前に総務文教常任委員会で話した覚えがあるが、状況が変わってきた。活性化のためにはバリアフリーを施した中で指定管理者制度を進め、町長の答弁を受け、増築して児童を展示できるように検討していきたい。

● 議会事務局

Q：議会だよりの印刷部数を減らしているが、今のところ何処

からも問題になっていない。広報委員会として、町広報誌が毎月第2第4週の折込みと二緒に議会報も折込みすれば安くなるというが、確認して欲しい。

A：調査します。

● 監査委員

Q：指定管理或いは委託先の監査はできるか。

A：監査は出来るが行っていない。

Q：ロープウェイの運営について、4,000万円の町への繰入を免除となったが、先方の数値をまだ検証していないことへの町民の不信感がある。

A：指定管理者そのものは監査対象となるが、このことについてはできない。

● 健康福祉課

Q：町の高齢化率が団塊世代を迎え、30〜35%の高齢化が進む中このままでいいのか。予防事業に力を入れると言っているが、定年を迎えた方のマンションの定住化が進むと更に高齢化が進む。健康体操だけでいいのか、今後の対策を伺いたい。

A：急激に高齢化率が上がる5年後には鈍化するものが高齢者の医療費の上昇をどう皆で負担を分け合うか、安心して

在宅で暮らせるような健康教育を取り組んでいきたい。また、マンション住民を二つの町内と捉え町内助成を図る地域力で助け合う社会の構築を目指したい。

Q：老人いこいの家利用者が20年度から年間640人に落ち、ここ数年少ない状態が続いていることから、施設活用の政策が見えてこないか。

A：学校統廃合を見据えた中で検討したい。いこいの家の具体的な案はなく、この場所での活用は難しい。

Q：県支出の自殺予防事業の内容、魚沼地域の自殺率が高い。町の取り組みは。

A：21年度と22年度で県自殺対策人材育成支援事業の心の健康づくり、日常生活の中で心の病氣、相談と情報の提供等と町事業では健康講座、広報等を通してメンタルヘルスの他県とリーフレットを配布している。

Q：精神障害者の数が社会問題化している。450人台から600人台に1年で延びた理由は。

A：20年度に637名、21年度に616名、統合失調症、躁うつ病が増えている。病院を受診すると病名が判明する。

Q：保険対策費の健診の受診率は。

A：健診全体では受診率が落ちている。20年度からの特定健診で保険者に義務付けられ、39歳以下と後期高齢者が対象となる。40歳から64歳の施設健診率が低い。65歳から74歳の集団健診、40歳から74歳までの人間ドックの合計受診率が51%と目標の55%に届かなかった。今後はPRが必要。

Q：配食者サービス事業の問題点は。

A：概ね65歳以上の単身高齢者、高齢者世帯、心身障害者傷病で調理が困難な方、栄養の改善が必要な方で、月木の週2回夕食を配食して自己負担200円、調理を自分で思う高齢者等にとって週2回では少ない。

Q：福祉関連予算で不用額が多いのは何故なのか、社会福祉協議会への補助金を増額してはどうか。

A：不用額が多いことに対し申し訳なく思っている。年度末に不足が生じないよう、又決定通知が遅いため減額補正できないためである。社会福祉協議会へ補助金が残ったから増額することは前段と視点が異なるし、協議会の円滑に運営できるように適正な執行に努めたい。

Q：介護保険特別会計

Q：介護保険の滞納者の内訳と

不能欠損について

A：普通徴収分が全て低所得者とは限らない、年金を担保に借り入れしている年金受給者も普通徴収者である。

Q：不能欠損の内容は。

A：税と異なり時効期間が2年間であり、他の税が優先される。

＜国民健康保険特別会計＞

Q：前年度の制度改正に伴い一人当たり18.5%引き下げってしまった。結果30%上げなければならぬ。詐欺事件もあり、支払う方から不満がなかったか。住民の反応はどうだったか。

A：国保税率を下げ、20年度後期高齢者医療制度が始まり、他町村同様によって一般会計から支援を受け、何とか動いてきた。税率を上げたことで心配したが、最終的に心配までには至らなかった。

Q：医療給付費が約6億円になるが、月別平均にバラつきがあるが平均はいくらか実情が知りたい。

A：100万円のバラつきがあるが4,000万円に推移、一時10名入院者が減り3,000万円になったことがある。このところ熱中症もあり5,000万円代になるか心配している。

Q：準備基金積立金について、医療給付費に対して国はどう見